

個別方針 1 大阪地区における「みどりの核」の形成

(1) うめきた 2 期区域全体で概ね8ha（水面等を含む）の「みどり」を確保
《主な取り組み内容》

①地上のまとまった「みどり」

接地性・永続性のある「みどり」として地区中央部に4.5haの都市公園、周辺部には街路樹を整備

②建築物と一体化し地上と連続する「みどり」

民間の創意工夫により地上部や低層建築物の上部など民間宅地及び西口広場で3.0ha以上の「みどり」を確保

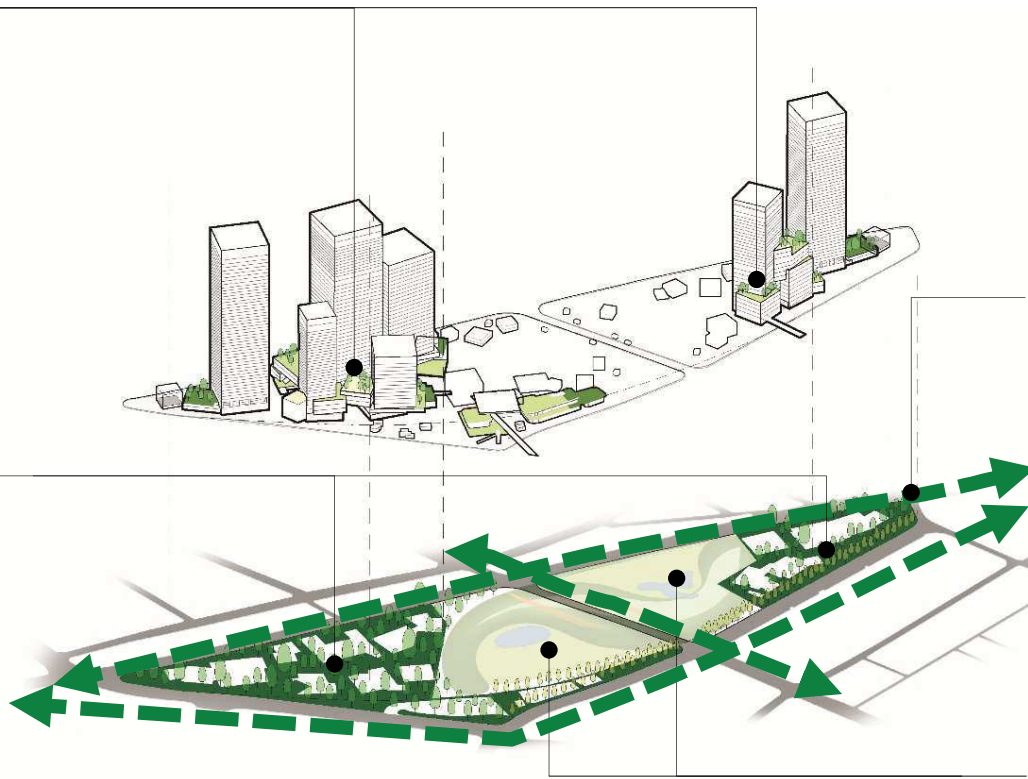
■ 民間宅地の立体的「みどり」

民間宅地の導入機能の特徴を活かした多様な「みどり」を創出



■ 民間宅地の「みどり」（1 階）

都市公園と一体となり 2 期区域全体の「みどり」の骨格を形成



■ 街路樹の「みどり」

周辺地区との連続性・一体性を確保した風格のある街の「みどり」を形成



■ 都市公園の「みどり」

2 期区域全体の核となる「みどり」を創出



個別方針 1 大阪地区における「みどりの核」の形成

(2) 多様な価値を創造する「みどり」を創出

《主な取り組み》

市民との接点を活かした体験価値の提供、イノベーション活動が行える多様な場の提供

- ・「みどり」に集う市民を対象に実証実験や、各種発表、体験などリビングラボ活動等を行える場を提供
- ・企業、大学、研究機関、アーティスト・クリエイター等が、総合コーディネート機関の支援メニューなどを使いながら様々なイノベーション活動を展開し、多様な価値の創造に繋げる

※総合コーディネート機関の内容については「みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会」にて検討中

■イノベーション活動の例



実証実験



セミナー・リビングラボ活動



イノベーション系イベント



アート・インスタレーション

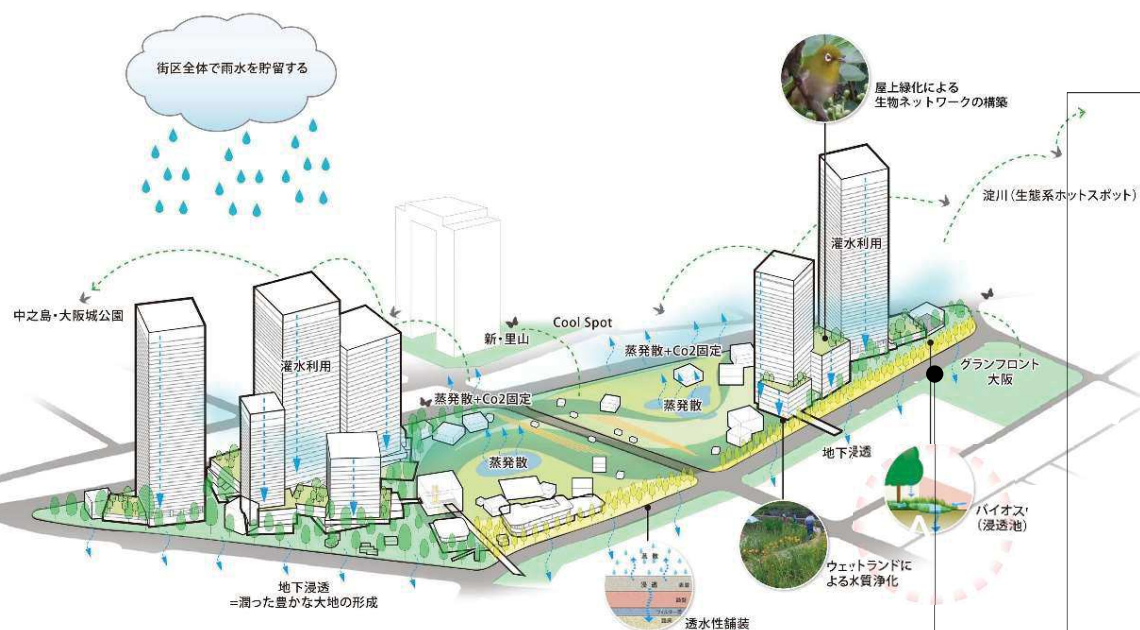
個別方針 1 大阪地区における「みどりの核」の形成

（２）多様な価値を創造する「みどり」を創出

《主な取り組み》

②グリーンインフラの活用

グリーンインフラを充実・機能させることにより、水循環を含め環境負荷の少ないまちづくりを進めるとともに地上部や建築物を積極的に緑化し、水と緑の豊かな環境の創出が生物多様性の保全・向上を図る。



■地上部や建築物の積極的な緑化

・地上部や中低層階において、ベーシックな「みどり」を確保

■ 微気象のコントロール

・高木植栽の緑陰や水景等の蒸発散作用により、微気象効果を誘発

■ 区域内循環型の水資源モデル

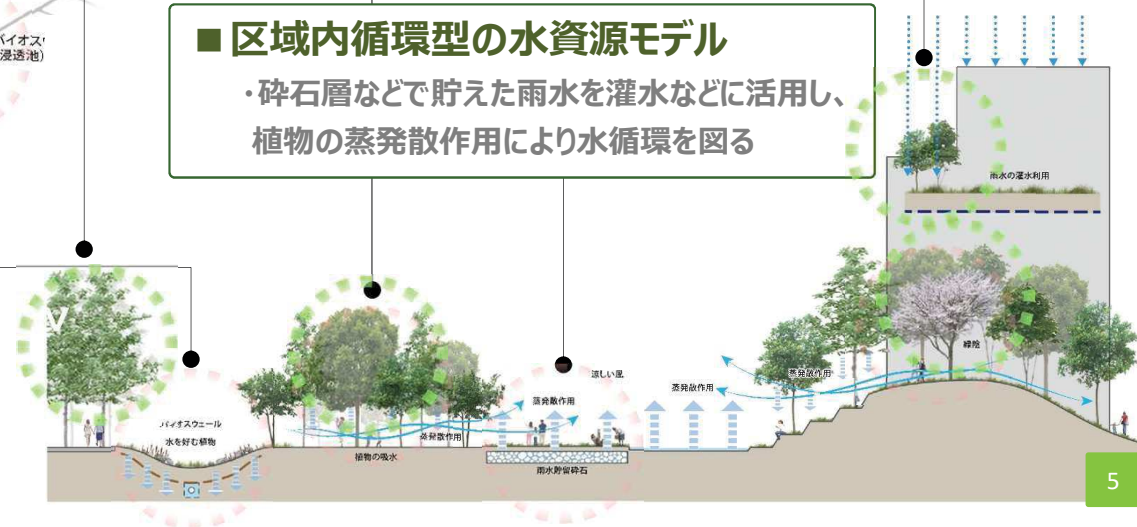
・碎石層などで貯えた雨水を灌水などに活用し、植物の蒸発散作用により水循環を図る

■ 雨水の地下浸透を促す

・バイオスウェールや透水性舗装などにより雨水の区域外流出を抑制

■ 生物に配慮した多様な環境の創出

- ・うめきた2期区域においては、水辺、湿地、草地、樹林地、広場を整備し、様々な生き物が成育することのできる環境を創出する。
- ・また、完成後も生物モニタリングを行い、メンテナンス方法を工夫しながら、より多様な成育環境の創出を図る。



個別方針 1 大阪地区における「みどりの核」の形成

(3) 地区周辺の防災・減災に資する「みどり」の創出

《主な取り組み》

災害時における避難者の流入や滞留等に対応する避難スペースを確保するとともに、都市公園においては緊急車両対応を想定した園路・広場や防災施設を配置し、災害後も速やかに機能回復できるまちの実現を目指す。

■大規模災害時の一時避難場所

地区全体で約6.0haの避難場所を確保

西口広場 約0.6ha

都市公園 約3.7ha

民間宅地 約1.3ha

■情報関連施設

防災スピーカーは音達エリアを確認しつつ適切な位置に配置し、公園内放送施設は、災害時における放送設備として活用する。



■マンホールトイレ

災害時の非常用便所として、災害用マンホールトイレを公園内に配置する。



■備蓄倉庫

公園における避難活動、および帰宅困難者対応として防災備蓄倉庫を設ける。



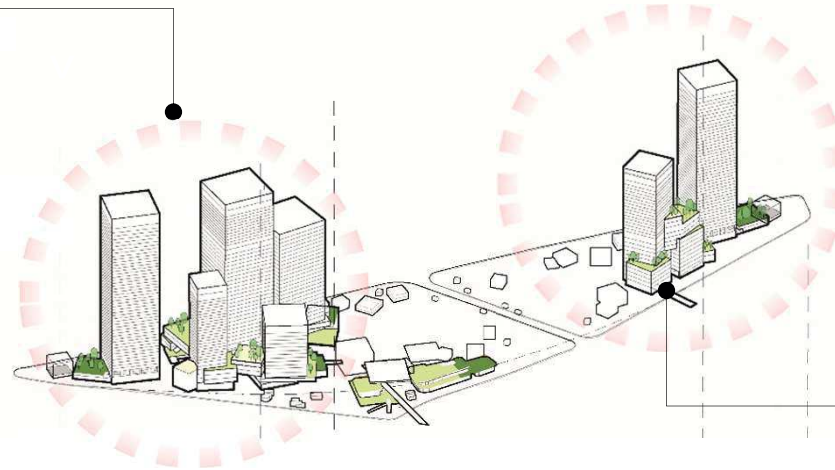
個別方針 1 大阪地区における「みどりの核」の形成

(4) 様々な手法を用いた立体的な「みどり」を創出

《主な取り組み》

主に民間敷地内において、それぞれの導入用途の特徴に応じた立体的な「みどり」を整備

《南街区のイメージ》



《北街区のイメージ》

